

初 夏季少年のバス 初めてづくしの天草の夏

福智町青少年育成町民会議主催の「夏季少年のバス」が、7月24日から2泊3日の日程で行われました。研修地の天草も、豪雨の影響のため予定を大幅に変更しましたが、雨の合間を縫ってイルカウォッチングと野生のホタルイカの観察などが実施されました。参加者41人は、ふるさとは味わえない出来事を仲間たちとともに体験した、貴重な3日間でした。



↑ 生まれて初めて間近に見るイルカに興奮して、大歓声を上げる子どもたち。

↓ ユーモアあふれる語り口に、会場からは拍手と笑いが絶えませんでした。



笑 福智町人権講演会 笑いに願いを込めた人権高座

福智町人権講演会が7月24日に地域交流センターで行われました。落語家露の新治さんが「笑顔でくらす、願いに生きる」をテーマに人権落語を披露。「差別はする側もされる側も不幸にします。差別を受ける『被差別』はもちろん、する側の『加差別』も無くして、みんなが笑える世の中に」と約170人の参加者に身ぶり手ぶりを交えながら語りかけました。

復 上弁城地区が災害の復旧に奉仕活動 復旧作業に強力な援軍

7月24日の豪雨災害で特に被害を受けた上弁城地区の復旧に、地区のボランティアが一役買っています。「困っている人のために」と自然に声が上がリ、8月2日に地元青年団「城青会」と子ども会ら約20人が土砂やがれきを撤去。被災者からは「みんなの働きぶりに元気もらった」「手が足りなかったのが本当に助かった」と感謝の声が上がっていました。



↑ 互いに協力をしながら、民家に流れ込んだ土砂を撤去するボランティア。

↓ 激しさを増す豪雨の中、傘を差しながら茅の輪を通り抜ける参拝者たち。



傘 岩屋神社大夏越祭 傘を手に茅の輪をくぐり健康祈願

7月25日岩屋神社境内(弁城)で「夏越おほはらえの大祓」の神事が行われ、参拝者が茅を束ねた輪を通り抜ける「茅の輪くぐり」で厄災をはらいました。境内に直径約2mの茅の輪が設置され、参拝者は「みな月のなごしの祓する人は千年の命延ぶというなり」と唱和した後、大きく8の字を描くようにして3回輪をくぐり、身も心も清めながら日々の健康を願いました。

↓ ひめゆり学徒隊生存者、謝花澄枝(じゃはなすみえ)さんのお話を真剣な面持ちでメモしていました。



美 沖縄平和学習「少年の翼」 ら島で学び感じた命の尊さ

交流事業実行委員会主催「少年の翼」が旧方城町から数えて今年で16回目を迎えました。町内の小学5・6年生25人が、8月1日から3日間、沖縄県中城村で同年世代の家庭にホームステイしました。現地は快晴に恵まれ、その暑さ以上にあたたかい大歓迎を受けた子どもたちは、初日と2日目に沖縄の名所や自然、文化を満喫。沖縄戦の慰霊の地を訪れた最終日は、ひめゆり平和祈念資料館で学徒隊の生存者から貴重な肉声を聞き、戦争の悲惨さ、平和と命の尊さを胸に受け止めていました。

町 福智町少年野球大会 町内で少年たちが球音響かせる

町内の少年野球チームによる大会が8月5日・6日に、赤池球場・赤池グラウンド・金田小グラウンドで開かれ、町内5チームがトーナメント方式で対戦しました。上級生の部は決勝で金田ジュニアクラブとの1点差ゲームを制した赤池ジュニアペアーズBが優勝。下級生の部は金田ジュニアクラブと福智スラッガーズが4-4と引き分け、ともに優勝となりました。



↑ ナイターで行われた上級生の部決勝戦。1回裏赤池ジュニアペアーズが先制。

↓ 穴あきお玉の影で日食の様子を観察する子どもたち(11時20分ごろ撮影)



福 町内で部分日食が観測される 福智町でも世紀の天体ショー

国内で46年ぶりに皆既日食が見られた7月22日、町内でも9時50分ごろから正午過ぎにかけて部分日食を見ることができました。日食がピークの10時50分ごろには約90%に欠けた太陽が三日月より細くなり、日食メガネなどで空を見上げる人々から歓声が上がりました。その後、太陽は12時20分ごろには真円に戻り、世紀の天体ショーは幕を閉じました。